

CASBEE-建築(新築)2016年版 (原形九州三菱自動車販売本社ビル東(新築)2016年版)		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)		
スコアシート		竣工段階		
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価値	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>				<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>				<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.2</b>	0.15	3.2
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	
1.2 雑音		3.0	0.40	
1 開口部遮音性能		3.0	0.64	
2 昇降機遮音性能		3.0	0.36	
3 昇降機遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	
4 昇降機遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	
1.3 吸音	床仕上げ:タイルカーペット、天井仕上げ:岩綿吸音板	4.0	0.20	
<b>2 温度環境</b>		<b>3.1</b>	0.35	3.1
2.1 室温制御		3.3	0.50	
1 室温		3.0	0.39	
2 外皮性能		3.0	0.24	
3 フォーン別制御性	方位別、ベリメータインテリア別の個別システム(約50㎡に1台の室内)	4.0	0.37	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	
2.3 空気方式		3.0	0.50	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.3</b>	0.25	3.3
3.1 昼光利用		3.5	0.33	
1 昼光率	昼光率22%	4.0	0.53	
2 方位別開口		-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.47	
3.2 グレア対策		3.0	0.27	
1 昼光制御		3.0	1.00	
3.3 照度	全般照明で500lxを確保	4.0	0.13	
3.4 照明制御		3.0	0.27	
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.2</b>	0.25	4.2
4.1 発生源対策		5.0	0.50	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を全面的に採用	5.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.30	
1 換気量		3.0	0.35	
2 自然換気性能		3.0	0.30	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.35	
4.3 運用管理		4.0	0.20	
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50	
2 喫煙者の制御	喫煙室を設置	5.0	0.50	
<b>Q2 サービス性能</b>				<b>3.7</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.8</b>	0.40	3.8
1.1 機能性・使いやすさ		3.8	0.40	
1 広さ・収納性	1人当たりの執務スペースを12㎡(通路・収納スペース含む)で計画	5.0	0.30	
2 高度情報通信設備対応	OAフロア、コンセント容量40VA/㎡以上、各階への配線スペース確保	4.0	0.30	
3 バリアフリー計画		3.0	0.41	
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	
1 広さ感・参観	CH2800を確保。開口部はH2700を確保	4.0	0.34	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	
3 内装計画	内観バースや照明計画策定	5.0	0.34	
1.3 維持管理		3.5	0.30	
1 維持管理に配慮した設計	評価内容参照	4.0	0.50	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.4</b>	0.30	3.4
2.1 耐震・制震・耐風		3.5	0.50	
1 耐震性(建築物のこわれにくさ)	基準法の1.25倍確保	4.0	0.80	
2 免震・制震・耐風性能		3.0	0.20	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	
4 空調換気システムの更新必要間隔		3.0	0.10	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	
2.4 信頼性		3.2	0.20	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	
3 電気設備		3.0	0.20	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	
5 通信・情報設備	評価内容参照	4.0	0.20	
<b>3 対応性・更新性</b>		<b>4.0</b>	0.30	4.0
3.1 空間のゆとり		4.6	0.30	
1 層高のゆとり	層高H=4.0m確保	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由度	柱間寸法1.47m	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり	床・小梁用積載荷重=4,900N/㎡	5.0	0.30	
3.3 設備の更新性		3.0	0.40	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				<b>2.4</b>
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	
3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	
3.1 地域性への配慮・快適性の向上		3.0	0.50	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	
<b>LR 建築物のエネルギー性能</b>				<b>2.9</b>
<b>LR1 エネルギー</b>				<b>2.7</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		1.0	0.20	
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	
3 設備システムの高効率化	BEI(BEIM) = 0.78	3.2	0.50	
<b>4 効率的運用</b>		<b>3.0</b>	0.20	3.0
集合住宅以外の評価		3.0	1.00	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	
集合住宅の評価		-	-	
4.1 モニタリング		3.0	-	
4.2 運用管理体制		3.0	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				<b>3.1</b>
<b>1 水資源確保</b>		<b>3.4</b>	0.20	3.4
1.1 節水	節水コマ、節水器具の採用	4.0	0.40	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	
2 非再生性資源の取引量削減		3.0	0.50	
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	
<b>3 有害物質含有材料の使用回避</b>		<b>3.2</b>	0.20	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	
3.2 フロン・ハロンの回避	二酸化炭素使用	3.3	0.70	
1 消火剤		4.0	0.33	
2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	
3 冷媒		3.0	0.33	
<b>LR3 敷地外環境</b>				<b>3.6</b>
1 地球温暖化への配慮	評価内容参照	3.6	0.33	
2 地域環境への配慮		2.6	0.33	
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	
3 交通負荷抑制	評価内容参照	5.0	0.25	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	
<b>3 周辺環境への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.33	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	
1 騒音		3.0	0.50	
2 振動		3.0	0.50	
3 悪臭		-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制		3.0	0.40	
1 風害の抑制		3.0	0.70	
2 砂塵の抑制		3.0	-	
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	
1 昼間光害(直射日光)の抑制		3.0	0.70	
2 夜間の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	